

地域活性化に向けた
JAくらしの活動実践事例
【Vol.4】

令和2年5月

宮城県農業協同組合中央会

JAグループSDGs取組宣言

わたしたちJAグループは、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に賛同し、その達成に向けて、事業・活動に取り組みます。

JAグループは「食と農を基軸とした地域に根ざした協同組合」として、組合員の皆さんの声に応えながら、不断の自己改革への取り組みを通じて、持続可能な地域農業・地域社会づくりに取り組んできました。今後はさらに、わたしたちの事業や活動が与える多面的な影響にも配慮しながら、地球的視野に立ち、地域社会を構成する一員として、組織・事業・経営の革新をはかり、社会的役割を誠実に果たします。JAグループは、各々の置かれた環境を踏まえて、SDGsの達成に向けて取り組んでいます。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS





地域活性化に向けたJAくらしの活動 【JA仙台】



宮城県内JA紹介



I. JAの概況（令和2年3月末現在）

- 本店所在地：仙台市宮城野区新田東2丁目15-2
- 組合員数：33,941人
（正組合員11,823人、准組合員22,118人）
- 事業取扱高
 - ・貯金残高 2,835.0 億円
 - ・貸出金残高 977.7 億円
 - ・長期共済保有高 8,493.1 億円
 - ・購買品供給高 14.0 億円
 - ・販売品販売高 40.5 億円

II. 主な取り組み概要

農業体験で笑顔！

10月17日、JAと秋保温泉旅館組合、仙台市などが連携する秋保環境保全米プロジェクト「清流育ち秋保米」の稲刈りが行われました。旅館の従業員や仙台市立馬場小学校の児童、生産者ら約100名が参加しました。稲刈り後には、旅館のシェフらつくる秋保温泉料理研究会や女性部秋保支部が手作りの料理を振る舞い、参加者は秋保の味覚を堪能しました。



▲秋保環境保全米プロジェクトのメンバー



▲「仙臺驛政宗」の酒米を収穫する参加者

9月13日、JAやJR東日本、根白石地区生産組合などで構成する「仙臺驛政宗（えきまさむね）酒造り協議会」は、地酒「仙臺驛政宗」に使う米を収穫しました。JR東日本のエキナカ店舗の従業員や生産者約80人が参加し、地酒造りをサポートしています。完成した地酒は仙台駅構内の飲食店と土産店、農産物直売所「たなばたけ」で販売する予定です。

10月8日、JAや松島町は「松島発！環境保全米プロジェクト」の新米試食会を開きました。松島高校観光科の生徒ら約80名が参加し、松島産の新米、環境保全米「ササニシキ」と「ひとめぼれ」を味わいました。



松島高校生徒さん他 約80名が新米試食▶

地域活性化に向けたJAくらしの活動

【JA岩沼市】

宮城県内JA紹介



I. JAの概況（令和2年3月末現在）

- 本店所在地：岩沼市中央二丁目 5-30
- 組合員数：3,926人
（正組合員 344人、准組合員 3,582人）
- 事業取扱高
 - ・貯金残高 317.6 億円
 - ・貸出金残高 111.1 億円
 - ・長期共済保有高 515.9 億円
 - ・購買品供給高 1.3 億円
 - ・販売品販売高 2 千万円

II. 主な取り組み概要

難聴者も安心 卓上型会話システムの窓口への導入



JA岩沼市では、高齢者に配慮した環境を整えるため、平成30年度より、耳が不自由な人にクリアな音声を伝えるスピーカーシステム「COMUON（コミュニケーション）」4台を窓口等に配備している。

マイクを通して話すとスピーカーから声がより明瞭に聞こえる仕組み。スピーカーの指向性を高めることで音声が外部にほとんど聞こえることがなく、会話中のプライバシーを守ることができる。

当機は本店、本店北購買店、西支店に加え、高齢者向けの送迎サービス車「らくちんGO！」の4ヶ所に設置しており、老人性難聴とみられる顧客や聴覚障害者が来店した場合、職員がコミュニケーションのある場所へ誘導する体制をとっている。

難聴者に大声で話したり、筆談や補聴器の着用を強いる必要がないことから、JAも滞りなくコミュニケーションがとれることが大きな魅力である。

JA常務理事は「声が聞き取りにくい方も、気兼ねなく利用できるようにした。安心して来店してほしい」と話している。



▲車を運転できない高齢者を支援する送迎サービス車「らくちんGO！」



↑クリアな音声を伝えるスピーカー「コミュニケーション」



地域活性化に向けたJAくらしの活動 【JA名取岩沼】

3 すべての人に
健康と福祉を



宮城県内JA紹介



I. JAの概況（令和2年3月末現在）

- 本店所在地：名取市増田一丁目 12-36
- 組合員数：6,589人
（正組合員 4,744人、准組合員 1,845人）
- 事業取扱高
 - ・貯金残高 530.0 億円
 - ・貸出金残高 151.0 億円
 - ・長期共済保有高 1,946.7 億円
 - ・購買品供給高 16.1 億円
 - ・販売品販売高 28.3 億円

II. 主な取り組み概要

お笑いや音楽のステージ楽しむ「年金友の会感謝祭」

JA名取岩沼ではJAの年金受給者や受給予定者、地域住民などを対象としたイベント「年金友の会感謝祭」を開いている。

2月20日に開いた同イベントでは、約450人が来場し、お笑いコンビの漫才やものまね、三味線と民謡の歌謡ショーを楽しんだ。ステージの最後には事前に配布したチケット番号でお楽しみ抽選会を実施。当選者には旅行券や仙台牛、管内で栽培されたイチゴを贈ったほか、来場者全員にキューブ型のひとめぼれ300gとAコープ商品のなべ焼きうどんをプレゼントした。

参加者からは「最後まで飽きずに楽しめた。これからも開催してほしい」などと好評だ。



▲年金友の会感謝祭 約450人来場



今年で3回目の開催となった同イベントは、寒い時期にも積極的に外出する機会を作り、地域住民との新たな友人の輪を広げてもらうことや、JA事業の理解を深めてもらうことを目的としている。

◀お楽しみ抽選会

旅行券や仙台牛、管内で栽培されたイチゴ等が当たりました。



地域活性化に向けたJAくらしの活動

【JAみやぎ亘理】



宮城県内JA紹介



I. JAの概況（令和2年3月末現在）

- 本店所在地：亘理郡亘理町逢隈田沢字遠原 36
- 組合員数：5,811人
（正組合員 3,886人、准組合員 1,925人）
- 事業取扱高
 - ・貯金残高 625.0 億円
 - ・貸出金残高 78.8 億円
 - ・長期共済保有高 1,789.8 億円
 - ・購買品供給高 15.3 億円
 - ・販売品販売高 53.1 億円

II. 主な取り組み概要

いちご狩りピクニック2019

6月8日、いちご生産の復興に感謝し、みやぎ亘理産「仙台いちご」を広くアピールすることと、地域への貢献として亘理・山元町内の保育所・幼稚園の園児たちを「いちご狩りピクニック2019」に招待しました。

招待したのは、管内の保育所・幼稚園 13 施設の園児及び保護者ら約 200 人。同部会の小野隆彦副部会長は、

「震災から復活した亘理産の甘くておいしいいちごをたくさん堪能してほしい」と挨拶しました。

子どもたちは赤く実ったいちごを収穫し、口いっぱいほおぼっていました。

また、JAみやぎ亘理産いちごのイメージキャラクター「わたリーナ」も登場し、記念撮影するなど大人気でした。



▲いちご狩りピクニック風景



▲甘くておいしいいちごをほおぼる子供達

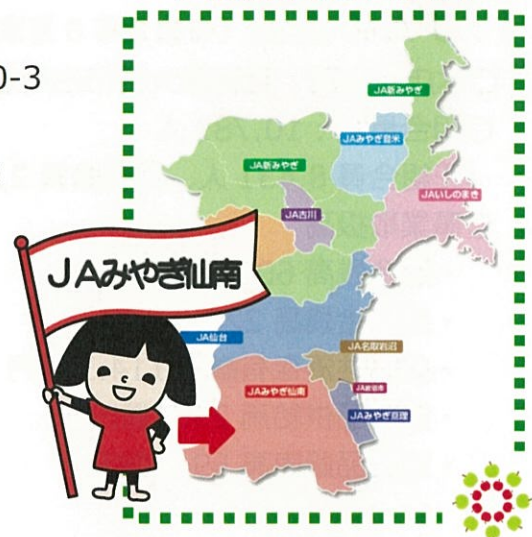


地域活性化に向けたJAくらしの活動 【JAみやぎ仙南】

宮城県内JA紹介

I. JAの概況（令和2年3月末現在）

- 本店所在地：柴田郡柴田町西船迫一丁目 10-3
- 組合員数：28,970人
（正組合員 17,038人、准組合員 11,932人）
- 事業取扱高
 - ・貯金残高 1,196.3 億円
 - ・貸出金残高 370.7 億円
 - ・長期共済保有高 5,805.4 億円
 - ・購買品供給高 43.9 億円
 - ・販売品販売高 89.3 億円



II. 主な取り組み概要

夏休み自由研究お手伝い企画／子ども防災スクールを開催

JAみやぎ仙南は8月20日、JA本店会議室を会場に『家の光』の記事をフル活用した防災グッズ作りや防災食の調理などを行う「防災スクール」を開きました。当日は親子合わせて34名が参加。

防災教室では『家の光』の記事から、ポリ袋でご飯を炊く・新聞スリッパ作り・ペットボトルランタン・ツナ缶ランプ・Tシャツエコバックづくりの5つの防災術を抜粋。新聞スリッパ作りでは、段ボールにペットボトルのキャップを貼り付けた「疑似瓦礫」の上を素足で歩いてもらい、その後新聞スリッパを履いて歩く事で違いを検証しました。参加した子どもたちからは「新聞だけど裸足よりも痛くない。新聞なのにすごい」との声が上がりました。



▲「ツナ缶ランプ」に点火！



←ポリ袋

▲ポリ袋ご飯を炊飯中



地域活性化に向けたJAくらしの活動 【JA古川】



I. JAの概況（令和2年3月末現在）

- 本店所在地：宮城県大崎市古川北町三丁目 10-36
- 組合員数：10,781人
（正組合員 8,431人、准組合員 2,350人）
- 事業取扱高
 - ・貯金残高 605.6億円
 - ・貸出金残高 220.3億円
 - ・長期共済保有高 2,114.3億円
 - ・購買品供給高 25.3億円
 - ・販売品販売高 59.5億円

宮城県内JA紹介



II. 主な取り組み概要

落語で笑って健康に！～わいわい茶論 年末特別企画～

JA古川では、JA古川型福祉活動「わいわい茶論」の年末特別企画として12月に、笑いで健康寿命の延伸を目指し地域高齢者を対象に「年忘れ、落語で笑（ショー）タイム！」と題した落語鑑賞会を開いている。

前年度に引き続き、2回目の開催となった令和元年度は、12月5日にパレットおおさきを会場に約200人が来場した。

加美町（旧小野田町）出身で東方落語代表の今野家もう世さんが宮城弁で枕や落語を披露し、親しみのある宮城弁と軽妙な語りで会場は終始笑いに溢れた。

前座では、もう世さんの弟子で女性落語家の今野家ちよすなさんも宮城弁の落語を披露した。

来場者は「昨年の落語もとても楽しかったので、今年も楽しみにしていた。今日もたくさん笑って良い時間を過ごせた。」と笑顔で話していた。



▲JA古川型福祉活動・年末特別企画
「落語鑑賞会」参加者約200名





地域活性化に向けたJAくらしの活動

【JA新みやぎ】



宮城県内JA紹介



I. JAの概況（令和2年3月末現在）

- 本店所在地：栗原市築館字照越大ヶ原 43-1
- 組合員数：50,918人
（正組合員 35,899人、准組合員 15,019人）
- 事業取扱高
 - ・貯金残高 3,336.4 億円
 - ・貸出金残高 719.4 億円
 - ・長期共済保有高 14,748.0 億円
 - ・購買品供給高 130.8 億円
 - ・販売品販売高 277.8 億円

II. 主な取り組み概要

フラッグシップ JA新みやぎコミュニティ誌「FLAGSHIP」



令和元年9月27日、JA新みやぎとして初のコミュニティ誌「FLAGSHIP」を発行しました。

旧JAみどりの、JAあさひなどで実施していた新聞折込形式の発行ではなく、河北新報朝刊とセットで配布している「週刊オーレ」内4ページに掲載する形で発行しました。信頼性の高い河北新報のメディア、週刊オーレ編集室が、生産者や米の品種紹介、若手職員などを取材形式で特集。県内全域の河北新報購読者、約45万部を配布する他、オーレ

Webサイト「オレモ」にも掲載することで、紙面とWeb両方で記事を読み込んでもらい、JA新みやぎの知名度アップにもつながりました。

読者には新みやぎ管内の新米を抽選で20人にプレゼント。主に仙台圏の応募者が多く、大変反響の大きな取り組みとなりました。



◀ JA新みやぎ
フラッグシップ
初のコミュニティ誌「FLAGSHIP」



地域活性化に向けたJAくらしの活動 【JA新みやぎ みどりの地区本部】



I. JAの概況（令和2年3月末現在）

- 本店所在地：栗原市築館字照越大ケ原 43-1
- 組合員数：50,918人
（正組合員 35,899人、准組合員 15,019人）
- 事業取扱高
 - ・貯金残高 3,336.4 億円
 - ・貸出金残高 719.4 億円
 - ・長期共済保有高 14,748.0 億円
 - ・購買品供給高 130.8 億円
 - ・販売品販売高 277.8 億円

宮城県内JA紹介



II. 主な取り組み概要

うたあそびコンサート みどりの管内の親子が終結！

JA新みやぎ みどりの地区本部では、7月27日、子育て支援事業「PIKAPIKA ママくらぶ うたあそびコンサート」を開き、管内の親子78人が歌やダンスで盛り上がりました。県内の保育士や幼稚園教諭などが集まった子育て応援団「ジャイアンとぱぱ」と保育シンガーソングライターの「荒巻シャケ」さんがあそび歌やダンス、マジックを披露し会場を沸かせました。

JA全農のキャラクター「パールちゃん」によるじゃんけん大会も行い、子どもたちの交流も深めました。参加者は、スキンシップで家族とのふれあいを楽しみました。

また、管内6地域で開いている、PIKAPIKAママくらぶの活動を紹介し、参加親子を募集しました。



▲マジックを披露する「ジャイアンとぱぱ」

▲親子78名が盛り上がりました



地域活性化に向けたJAくらしの活動 【JA新みやぎ 南三陸地区本部】

11 住み続けられる
まちづくりを



宮城県内JA紹介

I. JAの概況（令和2年3月末現在）

- 本店所在地：栗原市築館字照越大ヶ原 43-1
- 組合員数：50,918人
（正組合員 35,899人、准組合員 15,019人）
- 事業取扱高
 - ・貯金残高 3,336.4 億円
 - ・貸出金残高 719.4 億円
 - ・長期共済保有高 14,748.0 億円
 - ・購買品供給高 130.8 億円
 - ・販売品販売高 277.8 億円



II. 主な取り組み概要

フラワーアレンジメント教室を開く

JAと南三陸町の花弁生産者が組織するJA新みやぎ南三陸花卉生産協議会は11月16日、フラワーアレンジメント教室を同JA南三陸地区本部大会議室（本吉郡南三陸町）で開き、地域住民ら約50人が参加した。

参加者は講師を務めた「サトー園芸」（本吉郡南三陸町）の佐藤典明氏の指導のもと、「ピンポン菊でピヨちゃんのアレンジメントを作ってみよう！」という題で作品制作を行い、同協議会よりスプレー菊、サトー園芸店よりかすみ草、赤バラ、カーネーションなどが材料として提供され、色鮮やかな花で鉢を思い思いに飾り付けた。

教室の終わりには、講師の佐藤氏、同協議会の役員、全農宮城県本部職員、JA職員らが審査し、参加者の作品の中から鉢をきれいに飾った5名に、同協議会より南三陸米5キログラムがプレゼントされた。参加者は「講師の方による花の種類や産地の説明がとても分かりやすく楽しく飾り付けができた」と笑顔で話しました。



フラワーアレンジメント教室 ▶
参加者：地域住民ら約50人



地域活性化に向けたJAくらしの活動

【JA新みやぎ あさひな地区本部】



宮城県内JA紹介



I. JAの概況（令和2年3月末現在）

- 本店所在地：栗原市築館字照越大ケ原 43-1
- 組合員数：50,918人
（正組合員 35,899人、准組合員 15,019人）
- 事業取扱高
 - ・貯金残高 3,336.4 億円
 - ・貸出金残高 719.4 億円
 - ・長期共済保有高 14,748.0 億円
 - ・購買品供給高 130.8 億円
 - ・販売品販売高 277.8 億円

II. 主な取り組み概要

あさひな女性大学「はびすまカレッジ」 ～女性大学4期生が卒業～

JA新みやぎあさひなでは、さなざまなカリキュラムを通じて自分を磨き、楽しく学びながらJAを拠り所に新しい仲間作りをする場として、女性大学「はびすまカレッジ」を開校。今回は仙台市のロイヤルパークホテルで卒業式を行いました。

今回卒業したのは、平成30年6月に入学した第4期生で、JA組織についての講義をはじめ、食や文化・健康など幅広い分野のカリキュラムを2年間学習してきました。

卒業式には受講生11人が出席。鈴木敦あさひな地区副本部長が一人ひとりに卒業証書や記念品を授与しました。受講生は2年間にわたる全13回の講義を振り返り、「自分だけでは出来ないことに挑戦できて良かった」「地場産品やJAについて学び、非農家だがJAを身近に感じるようになった」と話しました。

また、同ホテルの宮崎宣徳さんを講師にテーブルマナーを学びながらフルコースを堪能しました。



◀女性大学卒業式



地域活性化に向けたJAくらしの活動 【JA新みやぎ いわでやま地区本部】

11 住み続けられる
まちづくりを



宮城県内JA紹介



I. JAの概況（令和2年3月末現在）

- 本店所在地：栗原市築館字照越大ヶ原 43-1
- 組合員数：50,918人
（正組合員 35,899人、准組合員 15,019人）
- 事業取扱高
 - ・貯金残高 3,336.4 億円
 - ・貸出金残高 719.4 億円
 - ・長期共済保有高 14,748.0 億円
 - ・購買品供給高 130.8 億円
 - ・販売品販売高 277.8 億円

II. 主な取り組み概要

第1回いわでやま地区本部JAまつり

JA新みやぎいわでやま地区本部は、令和元年11月3日にメルカド四季彩館駐車場を会場に、第1回いわでやま地区本部JAまつりを盛大に開催しました。

JAまつりは組合員や、地域の方に日頃の感謝を込めて開催しているもので、今年度は5JAが合併し、初の開催となりました。

当日は天候にも恵まれ、大勢の組合員や地域住民、近隣の市町村の方々にお越しいただきました。

オープニングセレモニーでは、当地区本部管内で栽培したササニシキを使用して製造した『特別純米酒ごっつおーざけ』での鏡割りを行い、その後3団体がよさこいで会場を沸かせました。

目玉イベントの歌謡ショーや大抽選会のほか、ジャンボカボチャ重量当てクイズなどJAらしいイベントを企画。中でも、管内産の新米を使用したカレーライスの試食コーナーは賑わいを見せました。そのほか、子どもたちに人気のキッズゲームコーナーや、地場産品販売などを行い、地域住民との交流を深めました。



▲会場を沸かせた「よさこい」



▲目玉イベント「歌謡ショー」



◀管内産の新米を使用した
カレーライスの試食 ▼





地域活性化に向けた J A 暮らしの活動

【 J A みやぎ登米 】



I. J A の概況 (令和2年3月末現在)

- 本店所在地：登米市迫町佐沼字中江3丁目9-1
- 組合員数：15,584人
(正組合員12,927人、准組合員2,657人)
- 事業取扱高
 - ・貯金残高 1,326.5 億円
 - ・貸出金残高 342.8 億円
 - ・長期共済保有高 5,490.6 億円
 - ・購買品供給高 93.5 億円
 - ・販売品販売高 173.5 億円

宮城県内 J A 紹介



II. 主な取り組み概要

地域を「笑顔」でいっぱい

J A みやぎ登米では、構成する8つの支店で工夫を凝らした独自の催しを開催している。これは、J Aらしいスタイルで、組合員や地域住民との新たな「つながり」を築き、J Aを拠り所として、地域の活性化を促し笑顔溢れる地域社会を築くことを目的としている。

2019年11月、行政が開催する祭りによねやま支店イベントコーナーとして4年目の参加協力を実施。地場産農畜産物の販売や縁日コーナー、新米食べ比べなど多彩なイベントブースを設置。「おもてなし」の気持ちで、組合員や地域住民に日頃の利用の感謝を伝えた。また、同月に「南方支店収穫祭」を初開催した南方支店では、他支店のイベントとは一線を画し、J A職員らによるステージイベントで会場を盛り上げた。これからもJ Aでは、「人と人」、「地域と地域」のつながりを強化し、青年部や女性部、各生産部会などたくさんの人々を巻き込み活動を強化していく。



▲ J Aらしいスタイルで、組合員や地域住民との新たな「つながり」を ▶





地域活性化に向けたJAくらしの活動 【JAいしのまき】

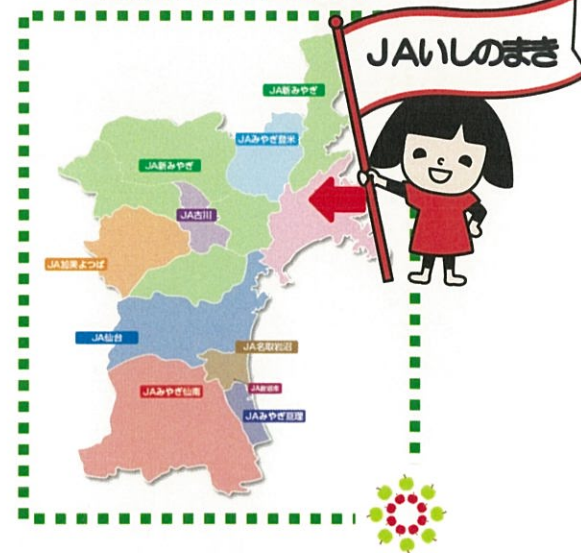
12 つくる責任
つかう責任



I. JAの概況（令和2年3月末現在）

- 本店所在地：石巻市中里五丁目1-12
- 組合員数：17,459人
（正組合員数9,589人、准組合員7,870人）
- 事業取扱高
 - ・貯金残高 1,501.9 億円
 - ・貸出金残高 505.6 億円
 - ・長期共済保有高 5,795.2 億円
 - ・購買品供給高 65.9 億円
 - ・販売品販売高 114.4 億円

宮城県内JA紹介



II. 主な取り組み概要

地域に根差した「くらしの活動」を

JAいしのまきでは、地域の特産品のPRやより一層のJA事業への理解を図ることを目的にくらしの活動として、地域ごとに地域の特色を生かしたイベントを開催している。

河北地区くらしの活動では、東日本大震災で大きな被害を受けた北上地区で、JAを中心とした地域社会づくりを目的に年に2回、感謝祭を開いている。特産品の試食販売や抽選会など来場者をもてなし、憩える交流のスペースも設けている。



▲年2回開催 北上地区「北上感謝祭」

桃生地区くらしの活動では、同地区特産のかぼちゃにちなんで、ジャンボカボチャ大会を開催。ほかにも地元中学生の吹奏楽などのステージ発表も行われ、来場者を楽しませた。

当JAでは、地域の活性化を図り、今後も地域に根差したJAとして活動していく。



◀桃生地区特産かぼちゃで「ジャンボカボチャ大会」

参 考 资 料

JA グループ SDGs 取組方針の策定について

(2) JA グループ SDGs 取組方針

- SDGs の経済・社会・環境の3側面にもとづく17の目標、169のターゲットの実践にあたっては、「食と農を基軸に地域に根ざした協同組合組織」であるJAの特性をふまえ、以下の3つの分野、6つの取り組みに整理し、その取り組みを通じて、JAグループはSDGsで目指す目標を達成していくこととします。
- なお、取り組み分野はJA 綱領とも親和性が高く、JA グループにおける基本的な価値を共有するものと考えます。

【 宣 言 】

わたしたち JA グループは、「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に賛同し、その達成に向けて、事業・活動に取り組みます。

JA グループは「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、組合員の皆さんの声に応えながら、不断の自己改革への取り組みを通じて、持続可能な地域農業・地域社会づくりに取り組んできました。

今後はさらに、わたしたちの事業や活動が与える多面的な影響にも配慮しながら、地球的視野に立ち、地域社会を構成する一員として、組織・事業・経営の革新をはかり、社会的役割を誠実に果たします。

JA グループは、各々の置かれた環境を踏まえて、SDGs の達成に向けて、事業・活動に取り組んでいきます。

I 食料・農業事業分野

<取り組み①> 持続可能な食料の生産と農業の振興に取り組みます。

- SDGs に貢献する活動の一義的な目的としては、全ての国民に対する安定的な食料供給を行うことで食料安全保障の確立に寄与することであり、そのために JA グループとして 不断の自己改革の取り組みを通じて、生産基盤の重要な要素である担い手の確保・育成と農地の保全・活用につとめます。

《関連する主な目標》

- 目標 2 : 飢餓をゼロに
農業者の所得増大（営農指導事業、販売事業）／農業生産の拡大
※具体策は各 JA・地域によって様々
- 目標 8 : 働きがいも経済成長も
農業従事者への各種支援／労働力支援／ICT 技術を活用した技術の導入
- 目標 15 : 陸の豊かさを守ろう
耕作放棄地の発生抑制・利活用の推進／土壌診断等土壌の質的劣化や連作障害の防止にかかる営農指導

<取り組み②> 持続可能なフードシステムの構築に取り組みます。

- SDGs の達成に向けては、農業生産・産地における取り組みだけでなく、流通段階や小売段階等においても環境負荷や資源効率を意識したバリューチェーン展開や消費行動の推進が必要です。
- 水やエネルギー等の資源効率の良い生産技術や資材の普及、並びに、出荷規格や商品パッケージ等の省資源化を通じて、とりわけ 生産段階で発生する資源の消費を抑制します。
- また、JA ファーマーズマーケット（農産物直売所）の活性化など、生産された農畜産物の 流通・販売段階でも資源消費を抑制します。
- さらに、「みんなのよい食プロジェクト」の推進等により、消費者等に対して持続可能な消費行動（フードロス削減、エシカル消費など）を推進し、消費段階での資源消費の抑制や環境負荷の軽減を図ります。

《関連する主な目標》

- 目標 2 : 飢餓をゼロに
食農バリューチェーンの構築
- 目標 7 : エネルギーをみんなに そしてクリーンに
省エネルギー（節電、節水など）技術および資材の普及／エネルギー効率の

	良い生産・輸送・販売方式の推進（直売所の活性化など）
目標 9	：産業と技術革新の基盤をつくろう 省エネルギー（節電、節水など）技術および資材の普及 ※CO2削減
目標 1 2	：つくる責任 つかう責任 よい食プロジェクトの推進（フードロス削減、エシカル消費の推進など）
目標 1 3	：気候変動に具体的な対策を 流通段階での省資源・エネルギー効率化など

<取り組み③> 農業生産における環境負荷の軽減に取り組みます。

- 農業が環境に負荷をかけるネガティブな側面を鑑み、地域実態等に応じて環境負荷の軽減に配慮した農業生産の仕組みを目指します。その農業を推進することで生態系の保全に寄与します。
- 農畜産物の生産に必要な肥料・農薬・飼料の使用に際して、使用前後での周辺環境・器具等の点検や使用量の確認などの使用基準の遵守を徹底し、使用に伴い発生するプラスチックゴミの廃棄や違法な焼却を防止するなど、環境及び人体への影響に配慮した生産資材の適切な処理を促すための営農指導を行います。
- また、生産資材以外にも、土壌の質的劣化並びに土壌流出や耕作放棄地の抑制など、土壌の保全を通じた環境への影響にも配慮した生産を促します。

《関連する主な目標》	
目標 2	：飢餓をゼロに 環境保全型農業の推進
目標 6	：安全な水とトイレを世界中に プラスチックゴミ等の不法投棄の撲滅／肥料・農薬の適切利用に関する営農指導
目標 1 2	：つくる責任 つかう責任 プラスチックゴミ等の不法投棄の撲滅／肥料・農薬の適切利用に関する営農指導／農業生産における環境負荷の軽減と持続可能なライフスタイルの提案
目標 1 3	：気候変動に具体的な対策を 土壌診断等による保全、農作物の高温障害対策／気候変動に対応した品種・品目への転換等
目標 1 4	：海の豊かさを守ろう プラスチックゴミ等の不法投棄の撲滅／肥料・農薬の適切利用に関する営農指導
目標 1 5	：陸の豊かさを守ろう 耕作放棄地の発生抑制・利活用の推進／土壌診断等土壌の質的劣化や連作障

＜取り組み④＞農業のもつ多面的機能を発揮していきます。

- 都市農村交流や都市農業の推進を通じて、緑地・公共スペースへの消費者等のアクセスを容易にし、経済・社会・環境などのあらゆる分野において都市と地方との良好なつながりを創出します。

- 農業・農村は生産面だけの機能ではなく、洪水・土砂崩れ防止機能、水資源涵養機能、大気調整機能、生物多様性保全機能、稲作等日本文化伝承機能、体験農業等学校教育の場、田園風景形成機能など環境面・文化面での様々な機能を有しており、その保全に寄与していきます。

＜関連する主な目標＞

- 目標 6 : 安全な水とトイレを世界中に
水資源生態系の保護／水田による水資源の保全
- 目標 1 1 : 住み続けられるまちづくりを
都市農業の維持・推進／都市農村交流の推進（直売所間連携、農泊など）／農業の多面的機能の提供を通じた JA の存在意義の発揮
- 目標 1 3 : 気候変動に具体的な対策を
多面的機能を有する農地の保全
- 目標 1 4 : 海の豊かさを守ろう
土壌の流出防止／水質浄化機能
- 目標 1 5 : 陸の豊かさを守ろう
耕作放棄地の発生抑制・利活用の推進／土壌診断等土壌の質的劣化や連作障害の防止にかかる営農指導

Ⅱ 地域・くらし事業分野

＜取り組み⑤＞安心して暮らせる持続可能で豊かな地域社会づくりに貢献していきます。

- 地域にくらす組合員・地域住民に対して地域に根ざす協同組合としての役割を積極的に果たしていきます。
- 地域の存続に不可欠な店舗の運営や移動販売車の運行等を通じて、生活基盤が脆弱な環境下にある消費者等が基礎的サービスにアクセスできる機会を確保します。
- また、高齢者福祉事業や健康管理活動など様々なサービスの提供を受ける機会を確保します。
- 農業と福祉が連携し、障害者の農業分野での活躍を通じて、農業経営の発展とともに、障害者の自信や生きがいを創出し、社会参画を実現する農福連携の取り組みについて、JA もその支援を行っていきます。

＜関連する主な目標＞

- 目標 1 : 貧困をなくそう
基礎的サービスとしてのインフラ機能の提供（移動販売車など）／インフラ機能の提供を通じた JA の存在意義の発揮／金融・共済サービスの提供
- 目標 3 : すべての人に健康と福祉を
医療（地域医療・へき地医療・診断所・歯科等）や福祉事業の提供／交通安全啓発活動（安全教室）
- 目標 4 : 質の高い教育をみんなに
食農教育の実施／子育て支援サービスの提供
- 目標 8 : 働きがいも経済成長も
障害者雇用、農福連携の推進／農泊事業（グリーンツーリズム等）の持続可能な観光業の推進
- 目標 10 : 人や国の不平等をなくそう
外国人労働者の不当な取り扱いの撲滅／100歳プロジェクトの推進
- 目標 11 : 住み続けられるまちづくりを
施設のバリアフリー化の推進
- 目標 13 : 気候変動に具体的な対策を
防災・減災の取り組み（地方公共団体、遠隔 JA 等との防災協定の締結など）

Ⅲ. 協同・組織運営分野

<取り組み⑥>国内外の多様な関係者・仲間との連携・参画につとめます

- 地域で暮らすすべての人が生きがいをもって共に成長し続ける社会に貢献します。
- 女性の運営参画や民主的な意思決定によるアクティブ・メンバーシップの推進、また、協同組合や商工会、地方公共団体等、地域な多様な組織とのパートナーシップを通じて、地方創生に取り組みます。

《関連する主な目標》

目標 5 : ジェンダー平等を実現しよう

女性理事・女性総代等の登用促進／女性管理職の登用促進

目標 16 : 平和と公正をすべての人に

アクティブ・メンバーシップの確立及び推進






目標 17 : パートナーシップで目標を達成しよう

協同組合間・農林漁商工業団体との連携／地方公共団体との連携協定の締結／地域の多様な組織(RMO等)との連携

<参考：SDGsの17の目標とJAが関連すると想定される取り組み例>

目標	目標	関連する取り組み例
	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用創出 ・組合員の所得向上 ・金融・共済サービスの提供 ・子ども食堂の運営・協力 ・基礎的サービスとしてのインフラ機能の提供(移動販売車など) ・インフラ機能の提供を通じたJAの存在意義の発揮
	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する	<ul style="list-style-type: none"> ・農業者の所得増大/農業生産の拡大 ・農業振興と食料の安定供給 ・生産基盤の維持 ・発展途上国における農業・農協支援 ・環境保全型農業の推進 ・伝統野菜の生産振興 ・生物多様性の維持 ・子ども食堂・フードバンクの運営・協力 ・福祉サービスの提供(JA版地域包括ケア等) ・移動販売 ・食料・農業(6次産業化等)にかかる製造業に対する投融資の推進 ・食農バリューチェーンの構築
	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	<ul style="list-style-type: none"> ・医療(地域医療・へき地医療・診断所・歯科等)や福祉事業の提供 ・健康づくり・介護予防活動 ・子育て関連事業 ・よい食プロジェクトの推進 ・交通安全啓発活動(安全教室) ・農業リスク診断活動 ・障害者雇用、農福連携の推進
	すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習 ・持続可能なライフスタイル教育 ・子育て支援サービスの提供 ・食農教育の実施 ・女性大学の実施 ・新規就農支援サービスの提供
	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・女性理事・女性総代等の登用促進 ・女性管理職の登用促進 ・女性農業者の新規就農・経営管理支援の促進(家族経営協定など) ・子育て支援事業 ・女性が働きやすい職場環境づくり
	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する	<ul style="list-style-type: none"> ・水田による水資源の保全 ・水資源生態系の保護 ・インフラ機能としての飲料水の安定供給(店舗・移動販売車など) ・水利管理等にかかる集落組織への地域住民の参画促進(人・農地プランなど) ・プラスチックゴミ等の不法投棄の撲滅 ・肥料・農薬の適切利用に関する営農指導

	目標	関連する取り組み例
 <p>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p>	<p>すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネルギー(節電、節水など)技術および資材の普及 ・再生可能エネルギー(太陽光、小水力発電)、バイオマス発電事業の活用 ・エネルギー効率の良い生産・輸送・販売方式の推進(直売所の活性化など)
 <p>8 働きがいも 経済成長も</p>	<p>包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農業生産、金融イノベーション ・食品産業等にかかる中小零細企業に対する融資の強化 ・移動店舗車、JA ネットバンク、JA バンクアプリ ・働き方改革 ・障害者雇用、農福連携の推進 ・農泊事業(グリーンツーリズム等)の持続可能な観光業の推進 ・農業従事者への各種支援(新規就農者等にかかる移住定着支援の推進、労働力支援、ICT 技術を活用した技術の導入など)
 <p>9 産業と技術革新の 基盤をつくろう</p>	<p>強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農業への ICT 等の先進技術の普及・促進 ・研究開発、研究者支援 ・省エネルギー(節電・節水など)技術および資材の普及(特に CO2 削減)
 <p>10 人や国の不平等 をなくそう</p>	<p>各国内及び各国間の不平等を是正する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティ経営の推進 ・人権問題の啓発活動 ・国内外のフェアトレードの促進 ・農福連携の推進 ・100 歳プロジェクトの推進 ・外国人労働者の不当な取り扱いの撲滅
 <p>11 住み続けられる まちづくりを</p>	<p>包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都市農業の維持・推進 ・都市農村交流の推進(直売所間連携、農泊など) ・交通安全の取り組み ・災害救援活動 ・「和食;日本人の伝統的な食文化」にかかる情報発信 ・世界農業遺産、日本農業遺産の普及・推進 ・防災・減災の取り組み ・地域の見守り・助け合い活動 ・施設のバリアフリー化の推進 ・農業の多面的機能の提供を通じた JA の存在意義の発揮
 <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>持続可能な生産消費形態を確保する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食の安全確保、食の情報開示 ・食品ロスの軽減(売れ残り、規格外品の利活用) ・プラスチックゴミ等の不法投棄の撲滅 ・消費者教育 ・フードバンク・リサイクル事業等を通じた資源効率の改善 ・紙資源等の3Rの推進・使用削減 ・よい食プロジェクトの推進(フードロス削減、エシカル消費の推進など) ・肥料・農薬の適切利用に関する営農指導 ・農業生産における環境負荷の軽減と持続可能なう

	目標	関連する取り組み例
	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる	イフスタイルの提案 ・自然災害を想定した事業継続計画(BCP)の策定 ・気候変動に対応した品種・品目への転換等 ・CO2 排出削減 ・流通段階での省資源・エネルギー効率化など ・土壌診断等による保全、農作物の高温障害対策 ・多面的機能を有する農地の保全 ・防災・減災の取り組み(地方公共団体、遠隔JA等との防災協定の締結など)
	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する	・漁協連携 ・MSC・ASC認証商品の積極的な活用 ・プラスチックゴミ等の不法投棄の撲滅 ・肥料・農薬の適切利用に関する営農指導 ・土壌の流出防止 ・水質浄化機能
	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する	・森組連携 ・間伐材やFSC認証商品の利用促進 ・紙使用削減 ・耕作放棄地の発生抑制・利活用の推進 ・土壌診断等土壌の質的劣化や連作障害の防止にかかる営農指導
	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する	・地域の見守り活動(児童・女性・要介護者等虐待牽制) ・マネーロンダリング防止対策 ・コンプライアンス態勢の確立 ・参加型意思反映(公正) ・アクティブ・メンバーシップの確立及び推進
	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する	・協同組合間・農林漁商工業団体との連携 ・地方公共団体との連携協定の締結 ・地域の多様な組織(RMO)との連携 ・ICA、JCA等との連携

<JCA 資料等参照・全中作成>



SDGs（エスディーゼズ）

「持続可能な開発目標（SDGs）」とは、地球規模での環境・社会問題が深刻化する中で、国際社会が協調して課題解決を図る観点から、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載される形で2015年9月の国連サミットにて採択され、2016年から2030年までの国際的な取り組み目標で、「地球上の誰一人取り残さない」をキーワードとしている。

17のゴール・169のターゲット・244の指標で構成されている。